

### 明石と日本標準時子午線

日本標準時子午線は、日本の標準時の基準となる子午線として明治19年(1886)に定められた東経135度の経線です。この日本標準時子午線上にある自治体は、京都府の京丹後市・福知山市、和歌山県の和歌山市、そして、兵庫県では、豊岡市・丹波市・西脇市・加東市・小野市・三木市・神戸市西区・明石市・淡路市です。これらの自治体は、目に見えない東経135度子午線の存在を示す標柱、標識、モニュメント等を建てています。

子午線が通過することの意味を早くから人々に知らせることを強く願った明石の先人たちは、明治43年(1910)に日本最初の子午線標識を建設しました。この標識は「大日本中央標準時子午線通過地標識」(明石市指定文化財)で、明石小学校長会が建てたもので、現在も、明石市天文町の大蔵交番(子午線交番)前にあります。

昭和3年(1928)には、明石中学校(現在の明石高校)の校庭で、正確な子午線位置を決めるための天体観測が行われ、その結果をもとに、昭和5年(1930)、人丸山に子午線の標識(トンボの標識 明石市指定文化財)、昭和8年(1933)に神明国道(現在の国道2号)に標識を建てました。神明国道の標識は、現在は明石市立天文科学館の案内板になっています。

明石市立天文科学館(国登録有形文化財)は、時と宇宙に関する知識を普及することを目的に、昭和35年(1960)6月に開館しました。現存する天文科学館の中では日本最初に落成した科学館として知られています。東経135度子午線上に設置され、日本標準時子午線(JSTM)と表示された時計塔があります。この塔には、日本標準時子午線を示す標柱の役割もあります。

時計塔のすぐ北には、人丸山の子午線標識(トンボの標識)があり、月照寺、柿本神社が隣接しています。ここから南を見ると、明石海峡、淡路島が一望でき、淡路方面へ見えない子午線が通過していることが想起できます。昭和26年(1951)には、この見晴らしの良い月照寺で天体測量が行われ、より正確な子午線の位置が決められました。昭和8年の明石中学校、昭和26年の月照寺における天体観測で使用された子午儀(しごぎ)はそれぞれ明石市指定文化財になっており、天文科学館に所蔵されています。

### 日本のへそ 西脇市

子午線が通過する自治体では、まちおこし、地域振興の手立てとして、子午線のモニュメントや標識を作っています。戦後、また平成になってからのものが多いですが、西脇市は、大正時代に陸軍参謀本部陸地測量部(国土地理院の前身)が測量した東経135度北緯35度交差点の標識をもとに、戦後、「日本のへそ」をアピールし地域振興に取り組んでいます。

